



第17回「Qの会」 総会・研修会報告

6月23日香川大学において、第17回「Qの会」総会・研修会が開催されました。今回の研修会は「認知症と糖尿病看護」患者の理解とケア」というテーマで、三人の講師の方の講演とグループディスカッションを行いました。

まず「認知症とは」について、香川大学医学部附属病院 精神・神経科 病院助教 森崇洋先生、次に「認知症高齢者の理解とケア」について、香川県立白鳥病院 認知症看護認定看護師 藤井智子先生そして「認知症介護とケアマネジメントについて」で、ケアマネジメントセンター 主任介護専門員・看護師 三好真寿先生にご講演をいただきました。

森先生からは、認知症の原因・病態・治療についてお話があり、まず的確な診断と早期治療が大切であることを学びました。また、藤井先生からは、患者の気持ちになってケアすること、三好先生からは、介護の現場での実例の問題や経過・援助について学びました。それぞれ立場からの専門的な講演でした。

グループディスカッションでは藤井先生の指導のもと、実際の認知症患者の看護について話し合いました。難しいテーマにも関わらず、活発に意見交換ができ、「指導に正解はない」「心でケアすることが大切」ということを改めて学ぶことができました。

研修会終了後、総会が行われました。平成24年度の理事・事業・会計報告が行われ、平成25年度の事業計画・予算案が可決されました。



研修会のアンケート結果

第17回研修会参加者53名のうち41名より回答をいただきました。参加されたきっかけは「単位取得のため」が最も多く、次に「テーマに興味があった」「問題を解決するため」「専門性を高めるため」となっていました。

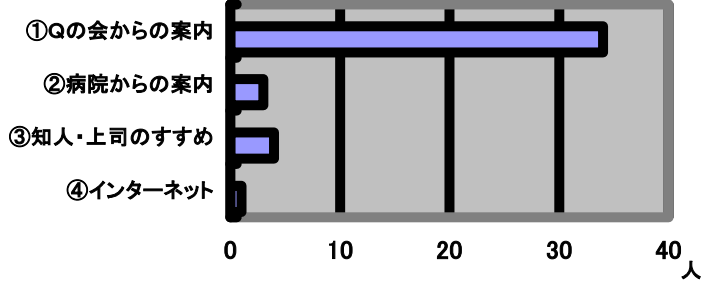
講師・内容については、「おおいに良かった」「良かった」という意見が100%を占めていました。その理由としては、「認知症という勉強しづらい内容を医師による講義でよく理解できた」「認知症患者の心に寄り添う看護の基本に気づかされた」「在宅の認知症患者の様子がよく分かり、退院に向けた援助や関わりを学べた」「医療者側からの見方しか出ていなかったので、反省して「患者・家族の視点に立った」援助方法を考えることの難しさが分かった」という意見がありました。

今後の研修についての希望は「合併症の看護」「糖尿病とコーピング」「チーム医療について」「肥満・2型糖尿病の看護について」「香川県の糖尿病患者の特性」などがありました。アンケート結果は、下のグラフをご参照ください。

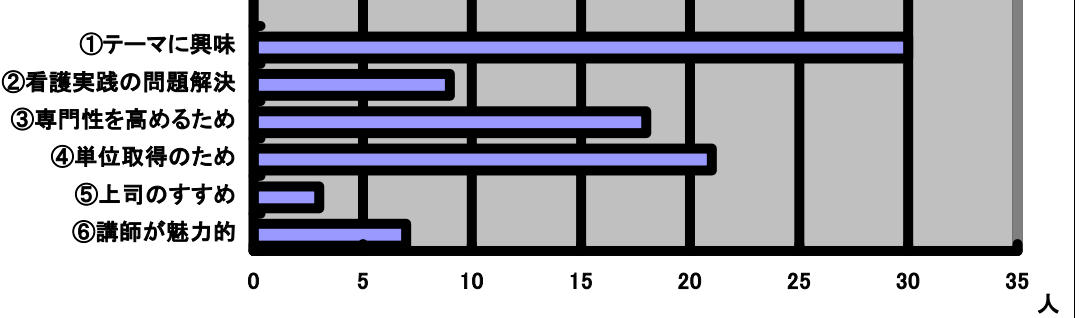
研修会風景



研修会をどうやって知ったか



研修会参加のきっかけ(複数可)



《会員の声》

第17回Qの会研修会に参加しては
香川県立香川病院 山本純子さん

6月23日、第17回Qの会研修会「認知症と糖尿病看護」患者の理解とケア」に参加させていただきました。高齢化により予想をはるかに上まわる勢いで増加する認知症高齢者」とどう向き合うのか、示唆に富んだ講演でした。その中で「認知症を看護の視点から理解することよりも、病理や病態を問うことよりも、認知症の人の体験している世界を知り、認知症という生活障害を持ちながら、一生懸命に努力している姿をあるがままに理解していくことである」とありました。患者さんの訴えは介護や看護をする側にとつて不快なことであっても、その人にとつて真実であり、その言葉通りに受け止め対応すること、言い換えれば、疾患ではなく、人に着目するということであり、その方法として「パイン センター ド ケア」(その人を中心としたケア)を図を示しながら説明していただき、理解を深めることができました。

私の体験ですがグループホームに入所し、いつもすべての診療行為に激しく抵抗するSさんの周辺症状への対応として、今まで筋肉注射をする場合、おさえつけてもらっていました。先日は、研修内容を思い出して、「Sさん、痛い思いをさせるけど、ごめんね」と抱きしめたところ、いつもよりずっと穏やかに注射を受け入れてくれ、Sさんの不安に寄りそつたことの大切さを実感することができました。

日々糖尿病療養指導にたずさわりながら、糖尿病の合併症による認知症を発症させないよう、決意を新たにしています。又、家族や介護者へインターネットでできる能力を養ってまいりたいと思います。



学会・研修会の案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第10回みとよ療養指導セミナー
日時：2013年9月19日(木) 19時～20時40分
場所：三豊総合病院 3階講堂
演題：腎障害合併時の糖尿病の治療
講師：香川県済生会病院副院長 大宮照明先生
連絡先：三豊総合病院

★第18回日本糖尿病教育・看護学術集会
日時：2013年9月22日(日) 23日(月・祝)
場所：パシフィック横浜
連絡先：FAX 03-3508-1302

★第27回 糖尿病診療―最新の動向―医師・医療スタッフ向け研修講座
日時：2013年10月6日(日)
場所：国立国際医療研究センター「東京会場」
連絡先：FAX 03-3202-9906

★第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会
日時：2013年11月1日(金) 2日(土)
場所：長良川国際会議場(岐阜県)
連絡先：TEL 03-3354-6155

★日本糖尿病学会中国四国支部第51回中国四国地方会
日時：2013年11月15日(金) 16日(土)
場所：岡山コンベンションセンター(ママカリアフォーラム)
連絡先：FAX 086-464-1046

★第28回 糖尿病診療―最新の動向―医師・医療スタッフ向け研修講座
日時：2013年12月1日(日)
場所：三宮研修センター(神戸)
連絡先：FAX 03-3202-9906

「糖尿病看護を通じて学んだこと」

坂出市立病院 松内香織

私は平成19年度に、専門分野(糖尿病)における質の高い看護師育成研修を受講し、平成20年に糖尿病療養指導士を取得しました。資格更新のためにQの会研修会に参加したり、学会発表をしました。Qの会の理事になってからは、これまで受け身で受講していた研修会の企画をするようになり、対象者のニーズや講師交渉など、ひとつの研修会を行うまでの準備がとて大変だということに気づきました。院内でも糖尿病教育チームで糖尿病教室の運営やフットケア外来を担当しています。院内、院外での活動を通して、とてもやりがいを感じていますが、ひとりよがりの活動に疑問や限界を感じ、平成23年に糖尿病看護認定看護師教育課程へ進学することにしました。

認定看護師教育課程での勉強はとても大変でした。今まで糖尿病療養指導士としての活動を自分なりにやってきたつもりでしたが、それだけでは不十分であることを認識しました。認定看護師教育課程では糖尿病についての知識はもちろん、グループワークで協力すること、交渉術、折り合いをつけることなど様々なことを学ぶことができました。教育を通して、人間としても大きく成長できたのではないかと思います。

認定看護師教育課程で学んだことで一番印象に残っていることは、「自分の視点で患者を看ない」ということです。これまで、きっと患者はこう思っているだろうと推測して看護をしていました。患者のことを解っているつもりで、実は全然わかっていなかったことを反省しています。また教育でも自分の視点で、きっとこれが知りたいだろう、これを知って欲しい、と押し付けのような指導をしていました。「成人学習者は自分の興味のあることしか勉強しない」ことを教えてもらい、やはり教育においても患者視点で、患者が今何が一番興味を持っているかを知る必要があります。一生懸命になりすぎておせっかいにならないよう、注意しないといけません。

現在は学校で学んだことを臨床で実践し、日々試行錯誤しています。認定看護師としてはまだまだ新人なので、これからも地域の皆様と力を合わせて糖尿病看護を極めていきたいと思います。

18回「Qの会」研修会の案内

日時：10月27日(日) 13時から17時
場所：香川大学医学部看護学科3階 305教室

メインテーマ『大血管障害と糖尿病看護』(仮)

講師：香川大学医学部附属病院 循環器内科 村上和司先生
坂出市立病院 慢性呼吸器看護認定看護師 山崎昌代先生

◆編集後記：今年の夏は猛暑日が続きましたが、皆様体調を崩してはいらっしゃいませんか。第10回日本糖尿病療養指導学術集会に行き、みんなの暑い思いを感じてきました。 広報担当 木村裕美・串田久美